MS-Wordによる解説記事作成ガイド

*How to Typeset Your Commentaries in MS-Word*

日本セキュリティ・マネジメント学会 真根地　太　郎

 Japan Society of Security Management Taro MANEJI

日本安全管理学会　　　世　　久　　一

　　Japan Safety Management Society Hajime SEKU

日本セキュリティ大学　 　 瀬　弓　理　亭

Japan Security University　 　Ritei SEKYU

日本マネジメント大学　　　間　音　太一郎

　　　　　Japan Management University Taichiro MANE

要　旨

　ここに和文要旨を600～800字程度でご記載ください．フォントはMS明朝10Pです．英数字についてはCentury10Pを使ってください．原稿は「……である」調の文体で，なるべく当用漢字を用い，新仮名遣いによってご記載ください．

キーワード

　和文キーワード，JSSM，セキュリティ，マネジメント，原稿全体の内容の特徴を示すものを3～6個

1. はじめに

ここから，1章，2章，・・・の順で論文の本文を執筆していきます．章の本文のフォントはMS明朝10Pです．英数字についてはCentury10Pを使ってください．本文は，章・節・項の区分を明確にし，それぞれ番号をつけてご記載ください．

1. 章の書き方

章が変わるときは，その前の段落の最後を１行あけます．章題のフォントはMSPゴシック10.5Pです．英数字についてはCentury10.5Pを使ってください．

本文では，参考文献を適切に引用し，当論文の研究上の位置づけ，主張の概要などを明記してください．

* 1. 節の書き方

節が変わるときも，その前段落の最後を1行あけます．節題のフォントはMSPゴシック10.5Pです．英数字についてはCentury10.5Pを使ってください．

節の本文のフォントはMS明朝10Pです．英数字についてはCentury10Pを使ってください．以下適切にご記載ください．

* + 1. 項の書き方

項が変わるときも，その前段落の最後を1行あけます．項題のフォントはMSPゴシック10.5Pです．英数字についてはCentury10.5Pを使ってください．以下適切にご記載ください．

* 1. 章題・節題・項題が連続する場合
		1. 章題・節題が連続する場合

章題の直後に節題が続く場合は，章題と節題との間は１行あける必要はありません．

* + 1. 節題・項題が連続する場合

節題の直後に項題が続く場合も，節題と項題の間を1行あける必要はありません．

1. 図表を掲載する場合
	1. 図を掲載する場合

図の下に「図1　〇〇〇」という形で図題を記します．図の中の文字は，読者の判読が容易となるフォントサイズをお使いください．

図1　図の掲載例

* 1. 表を掲載する場合

表の上に「表1　〇〇〇」という形で表題を記します．表の中の文字は，読者の判読が容易となるフォントサイズをお使いください．

表1　表の掲載例

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |

1. 脚注がある場合

用語や補足説明の脚注がある場合は，本文中に[[1]](#footnote-1)という形式で付記し，該当ページの下部に注記をご記載ください．

1. 参考文献

参考文献をつける場合は，本文中に[1]という形式で付記して下さい．参考文献一覧については，謝辞の後に，筆者のアルファベット順，年代順に掲げます．記載事項は下記の参考文献の例をご参照ください．

1. まとめ

論文の内容に応じて，章・節・項は必要に応じて追加してください．最後の章には，まとめを書きます．

謝辞

謝辞がある場合は，ここに記してください．

参考文献

1. （和雑誌の場合）

執筆者名，「題名」，『雑誌名』，〇巻〇号，発行年月，引用頁．

1. （洋雑誌の場合）

執筆者名，“題名”，*雑誌名（斜体）*，Vol.〇，No.〇，発行年月，引用頁．

1. （和書籍の場合）

著者名，『書名』，出版社名，発行年月，引用頁．

1. （洋書籍の場合）

著者名，*書名（斜体）*，出版社名，発行年月，引用頁．

1. （Webサイトの場合）

サイト名，URL，参照年月．

1. 安心太郎，『情報管理』，JSSM出版，1999年2月．
2. Bel,E., *Safety Strategy*, The JSSM Press, Mar.1991.（安光，全野訳，『安全の戦略』，ルビー社，1993年4月．）
3. Emmery,J.C.,“The Function of IRM”, in Henshamei,T. (ed.), *Historical Process of MIS,* JASMIN Press, Mar.1922, pp.123-185.
4. 新俳章，「セキュリティ管理」，『日本セキュリティ・マネジメント学会誌』，11巻11号，1998年3月，25-30頁．
5. Mikee,F., ”The Security Revolution”, *Journal of Security,* Vol.5, No3, Feb.1995, pp.56-78.
6. The Twenty Most Critical Internet Security Vulnerabilities, http://www.sans.org/top20.htm, Sep.2018．

（受付日：200○年○月○日）

著者略歴

真根地 太郎（まねじ・たろう）

1979年，〇〇大学工学部電気工学科卒業．1981年，○○大学大学院工学研究科修了．同年～現在，（株）MNJ通信システム研究所．アクセス制御の研究に従事．日本セキュリティ・マネジメント学会理事．

世久 一（せく・はじめ）

1985年，〇〇大学情報学部卒業．1987年，同大学院情報学研究科修了．1987年～現在，HSK㈱安全管理センターに勤務．日本安全管理学会常任理事．日本セキュリティ学会会員．

瀬弓 理亭（せきゅう・りてい）

1993年，〇〇大学法学部卒業．1993年～2005年，SKR株式会社にて法務・監査の業務に従事．2005年～現在，日本セキュリティ大学教授．

間音 太一郎（まね・たいちろう）

2000年，〇〇大学経営学部卒業． MKT株式会社にて経営コンサルタントの業務に従事．2015年～現在，日本マネジメント大学准教授．

1. ここに脚注を記載します． [↑](#footnote-ref-1)